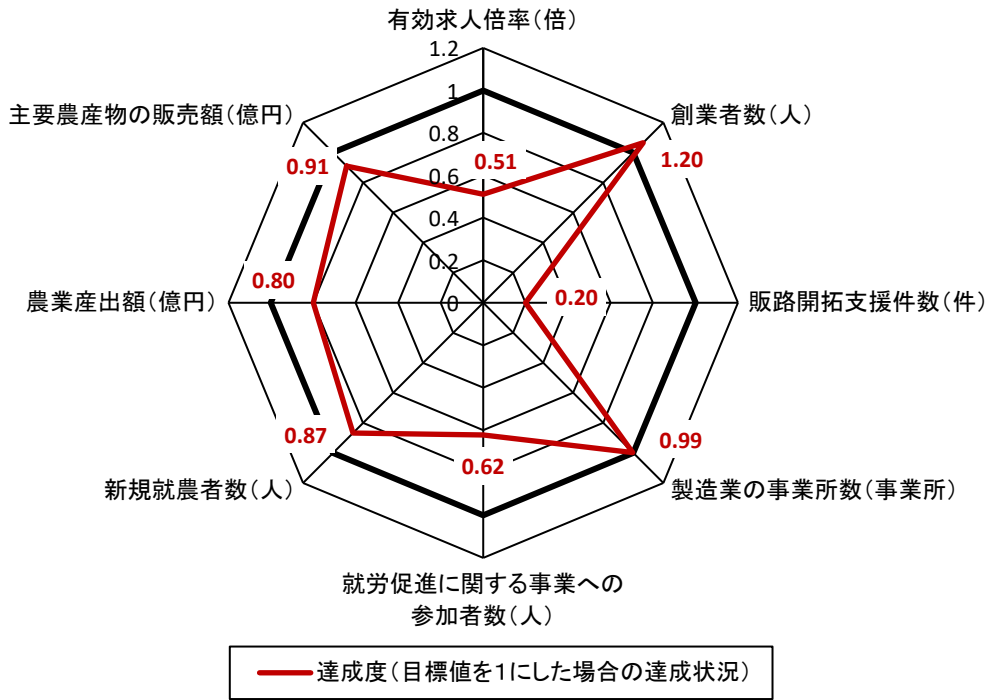
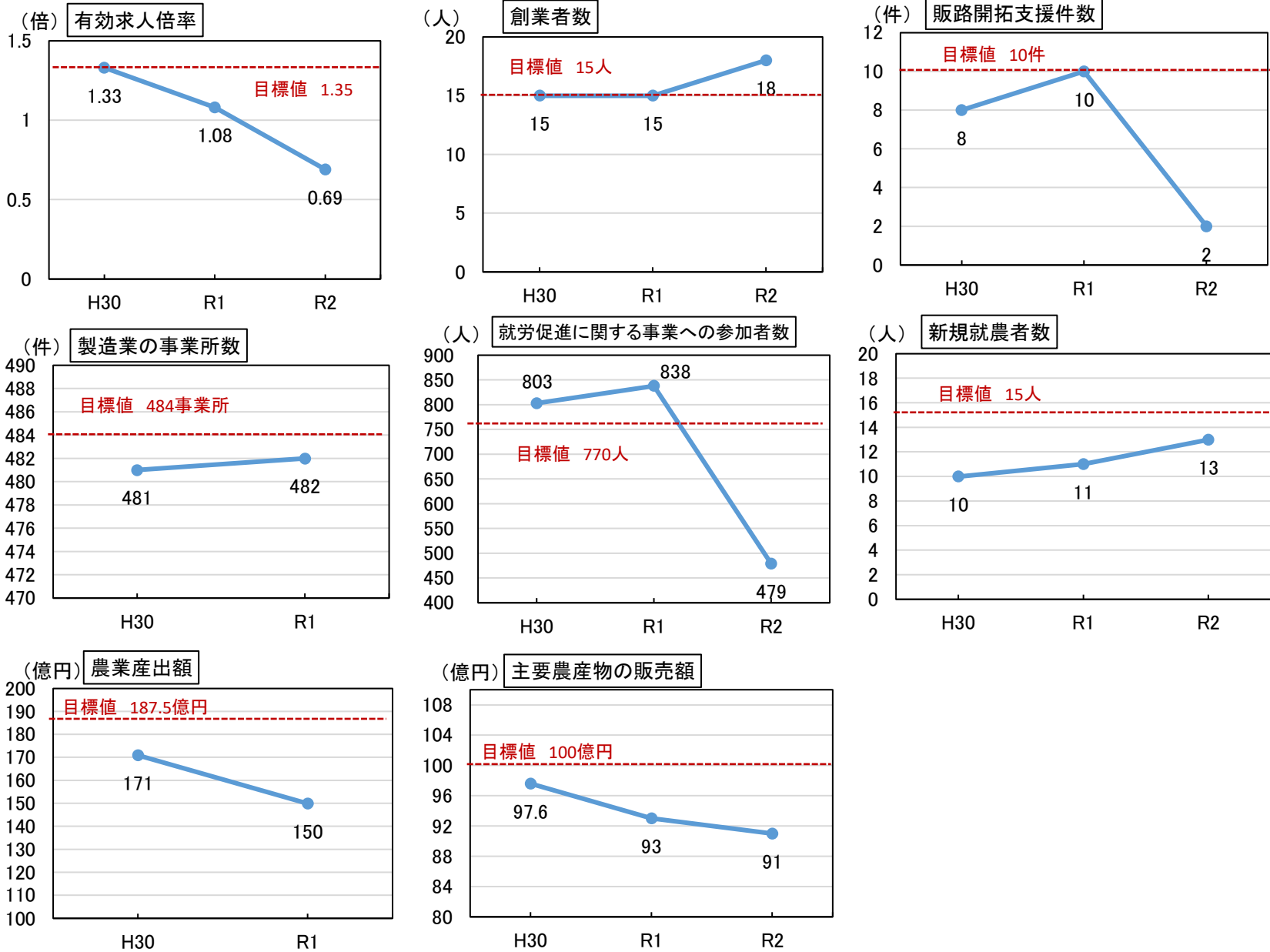


1 重要業績評価指標（KPI）の評価 （※ KPIのうち「年間商品販売額」は、最新値が公表されていないため非掲載。）

(1) 達成状況レーダーチャート

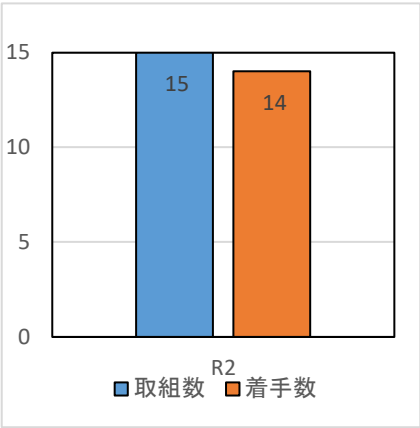


(2) 施策別 KPI の推移

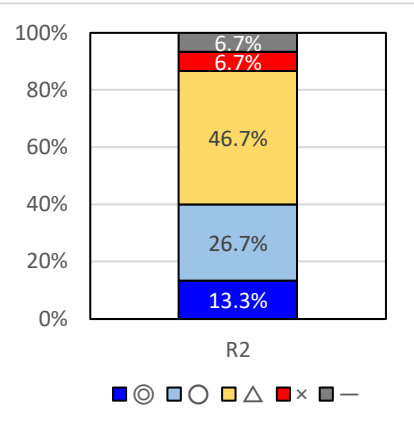


2 事業効果（主管課による評価）の推移

(1) 着手率



(2) 自己評価割合



着手率	93.3%
-----	-------

評価内容	◎:非常に効果的であった(目標値を上回った) ○:相当程度効果があった(目標値を上回っていないが、7~8割達成) △:効果があった(目標値を上回っていないが、事業開始前よりも改善) ×:効果がなかった、効果が得られなかった ―:未着手・未実施
------	---

4 新型コロナウイルス感染症の影響下における各指標の状況

※取組状況報告に掲載されているKPI及び活動指標のうち、令和元年度と2年度の実績値の増減の差が概ね20%以上ある主なものを抽出。増減に*がある指標は減少の方が効果的であるもの。

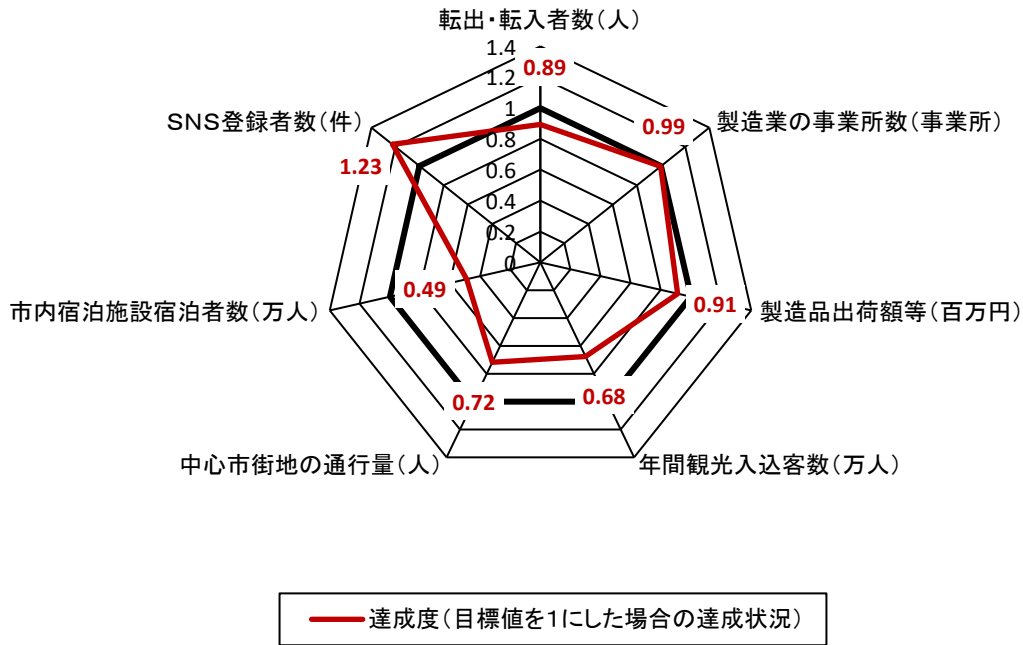
KPI(重要業績評価指標)又は活動指標	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	増減(%)
有効求人倍率	1.08	0.69	▲36.1%
販路開拓支援件数	10件	2件	▲80.0%
就労促進に関する事業への参加者数	838人	479人	▲42.8%
創業支援相談件数	227件	371件	+63.4%
職業能力開発専門学院の受講者数	750人	416人	▲44.5%
地域技能者活用事業による資格取得者数	10人	2人	▲80.0%
就農塾受講者数	4人	2人	▲50.0%
農作物被害額	21,547千円	12,930千円	▲40.0% *
農業体験・調理教室等参加人数	143人	19人	▲86.7%

3 評価における自己分析

- KPIでの目標値達成率は、12.5%（8項目中1項目※最新値が公表されていないKPIを除く）となっており、「創業者数」のみ達成した。「有効求人倍率」や「販路開拓支援数」など、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたと考えられる指標がある。
- 主な事業の活動指標を基にした担当課の自己評価（R2）については、KPI達成状況と概ね連動していると考えられるが、「首都圏人材確保支援事業」は全事業の中で唯一、効果がなかったとの自己評価であり、事業内容の検証が必要と考える。

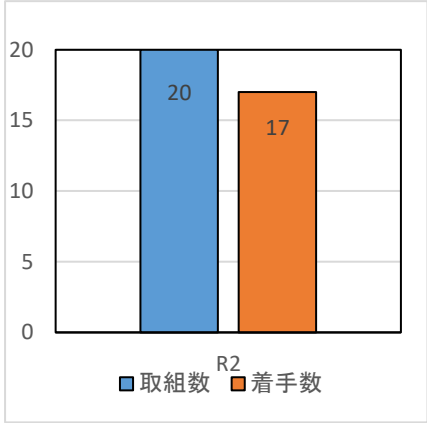
1 重要業績評価指標（KPI）の評価

（1）達成状況レーダーチャート



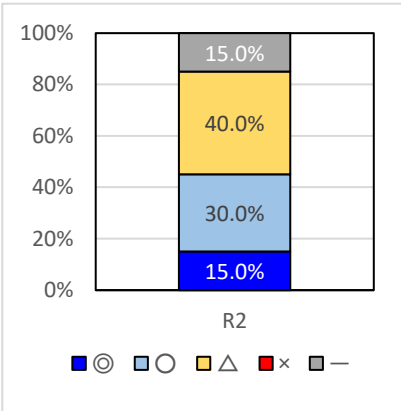
2 事業効果（主管課による評価）の推移

（1）着手率



着手率
85.0%

（2）自己評価割合



評価内容
◎:非常に効果的であった(目標値を上回った)
○:相当程度効果があった(目標値を上回っていないが、7~8割達成)
△:効果があった(目標値を上回っていないが、事業開始前よりも改善)
×:効果がなかった、効果が得られなかった
―:未着手・未実施

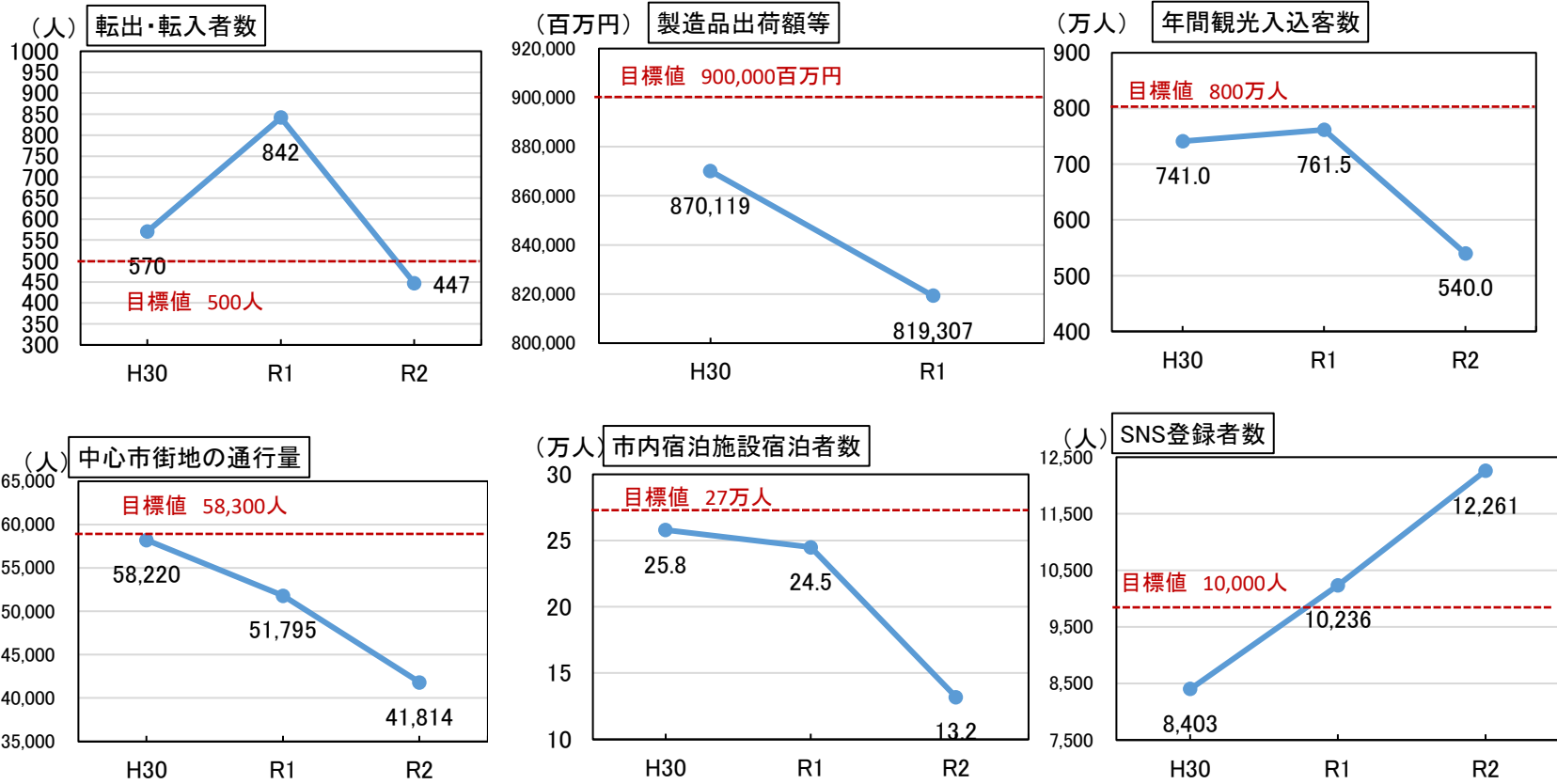
3 評価における自己分析

■KPIでの目標値達成率は、14.3%（7項目中1項目）となっており、特に「転出・転入者数」、「市内宿泊施設宿泊者数」の落ち込みが大きく、商業活動や観光分野を包含する「ひとの流れづくり」に対しては新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響していると考えられる。

■業績評価指標を基にした担当課の自己評価（R2）については、「シティセールス・観光の振興」が△の評価を多く占める一方で、「企業立地・産業集積」は◎の評価が多く比較的順調に事業が進展している。

（2）施策別KPIの推移

※KPIのうち「製造業の事業所数」の推移は、基本目標①しごとづくりの（2）に施策別KPIの推移に掲載。

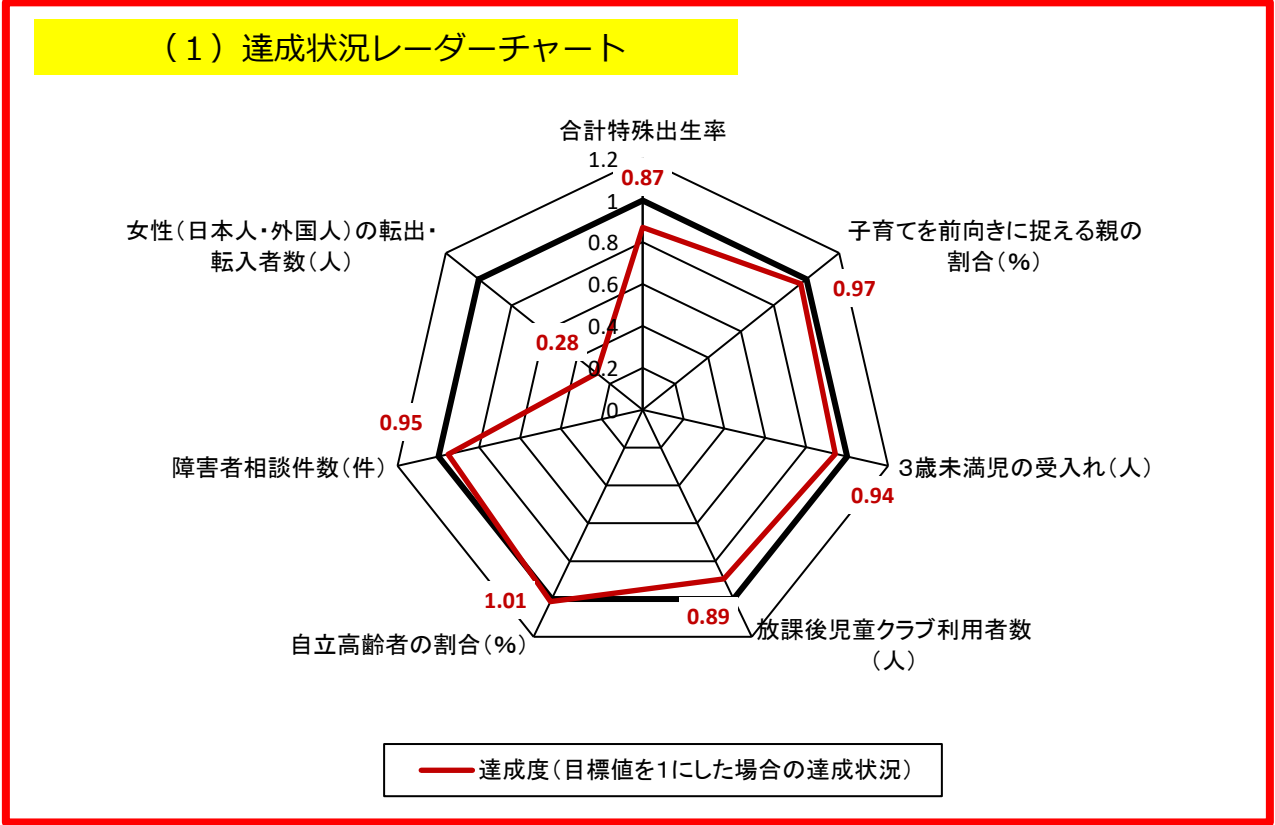


4 新型コロナウイルス感染症の影響下における各指標の状況

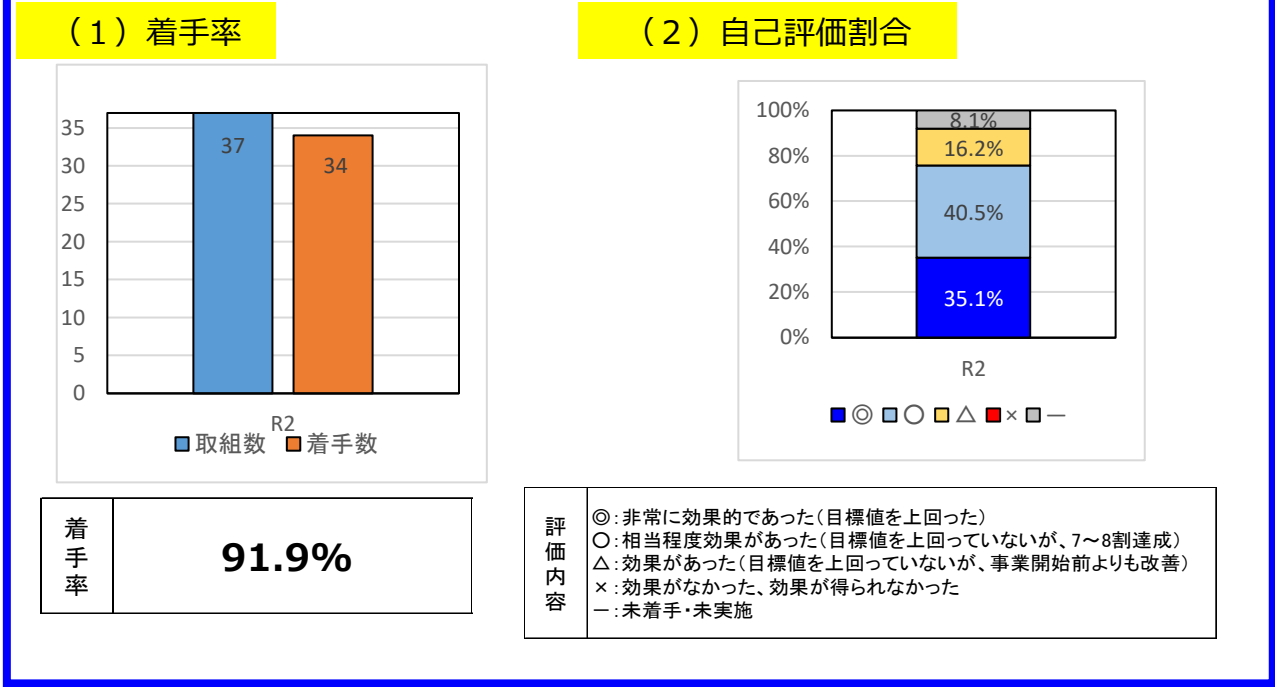
※取組状況報告に掲載されているKPI及び活動指標のうち、令和元年度と2年度の実績値の増減の差が概ね20%以上ある主なものを抽出。

KPI(重要業績評価指標)又は活動指標	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	増減（％）
転出・転入者数	842人	447人	▲46.9%
年間観光入込客数	838万人	479万人	▲42.8%
市内宿泊施設宿泊者数	25万人	13万人	▲46.1%
とよかわブランドを活用したプロモーション実施回数	13回	4回	▲69.2%
ぎょぎょランド来園者数	36.7万人	25.8万人	▲29.7%
リレーマラソン・シティマラソン参加者数	5,931人	0人	▲100.0%
トップアスリートふれあい交流事業の教室参加者数	235人	45人	▲80.9%
スポーツ合宿宿泊者数	1,012人	186人	▲81.6%
運動施設利用者数	420,355人	225,924人	▲46.3%
三河天平の里資料館・平和公園・大橋屋の来園者・来館者数	60,782人	40,572人	▲33.2%
外国人宿泊者数	52,079人	2,706人	▲94.8%
ウォーキングイベント参加者数	420人	0人	▲100.0%
観光おもてなし力促進事業の講座受講者数	3人	0人	▲100.0%
ふるさと納税返礼品数	24品	107品	+345.8%

1 重要業績評価指標（KPI）の評価 （※ KPIのうち「『子どもを生み、育てる環境』市民満足度」は、最新値が公表されていないため非掲載。）



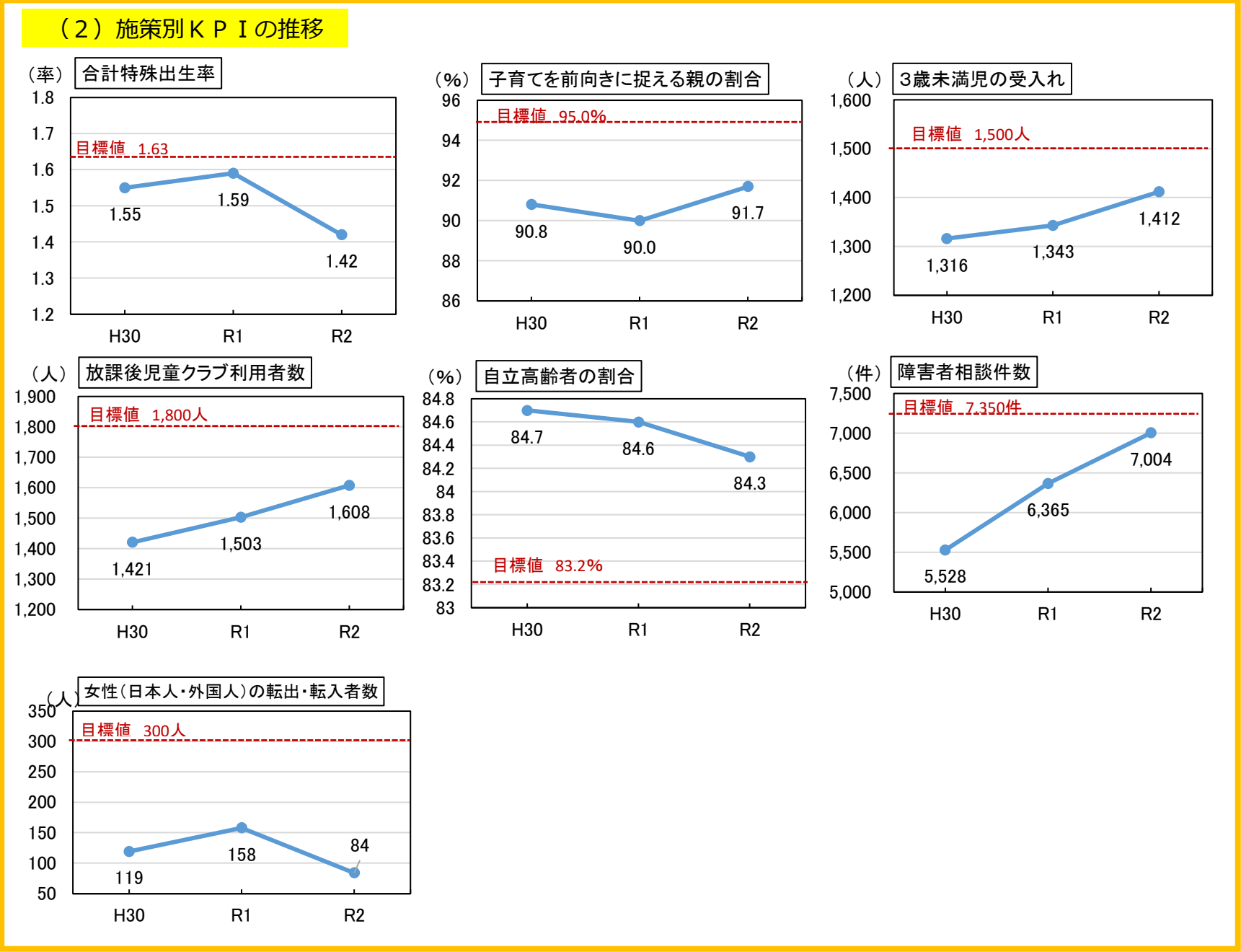
2 事業効果（主管課による評価）の推移



3 評価における自己分析

■KPIでの目標値達成率は、14.3%（7項目中1項目※最新値が公表されていないKPIを除く）と低いものの、3つのKPIで達成度が目標値の9割に達しており、相当程度の効果があつたものと評価する。

■活動評価指標を基にした担当課の自己評価（R2）については、KPI達成分野及び達成度が高い事業において◎の評価または○の評価が多く、個別事業の活動指標とKPI（成果指標）が、概ね適正に設定できていると考える。



4 新型コロナウイルス感染症の影響下における各指標の状況

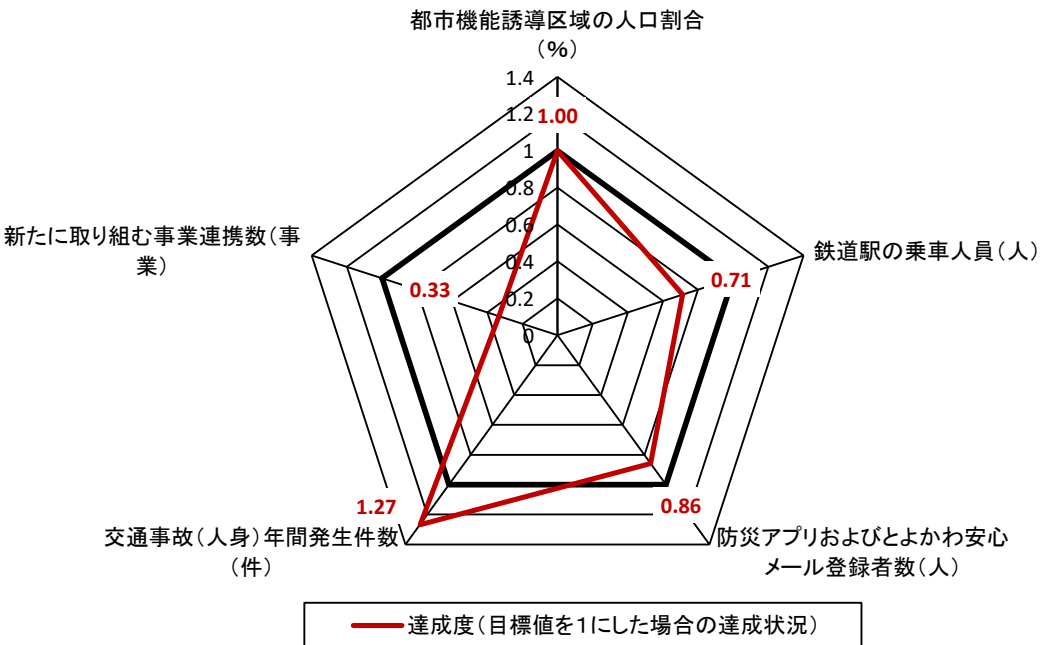
※取組状況報告に掲載されているKPI及び活動指標のうち、令和元年度と2年度の実績値の増減の差が概ね20%以上ある主なものを抽出。

KPI(重要業績評価指標)又は活動指標	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	増減 (%)
女性（日本人・外国人）の転出・転入者数	158人	84人	▲46.8%
婚活イベント参加者数	72人	18人	▲75.0%
産後ケア利用件数	10件	33件	+230.0%
一時預かり事業延べ利用児童数	7,367人	4,799人	▲34.9%
病児・病後児保育事業延べ利用児童数	373人	9人	▲97.6%
ファミリー・サポート・センター事業活動件数	1,752件	2,474件	+41.2%
電子連絡帳システムに登録されている延べ患者数	2,019人	2,931人	+45.2%
こぎつね教室に年間で入室する児童生徒の人数	60人	47人	▲21.7%
ワーク・ライフ・バランスに関する講座の参加人数	50人	15人	▲70.0%
とよかわオープンカレッジ講座数	339講座	138講座	▲59.3%

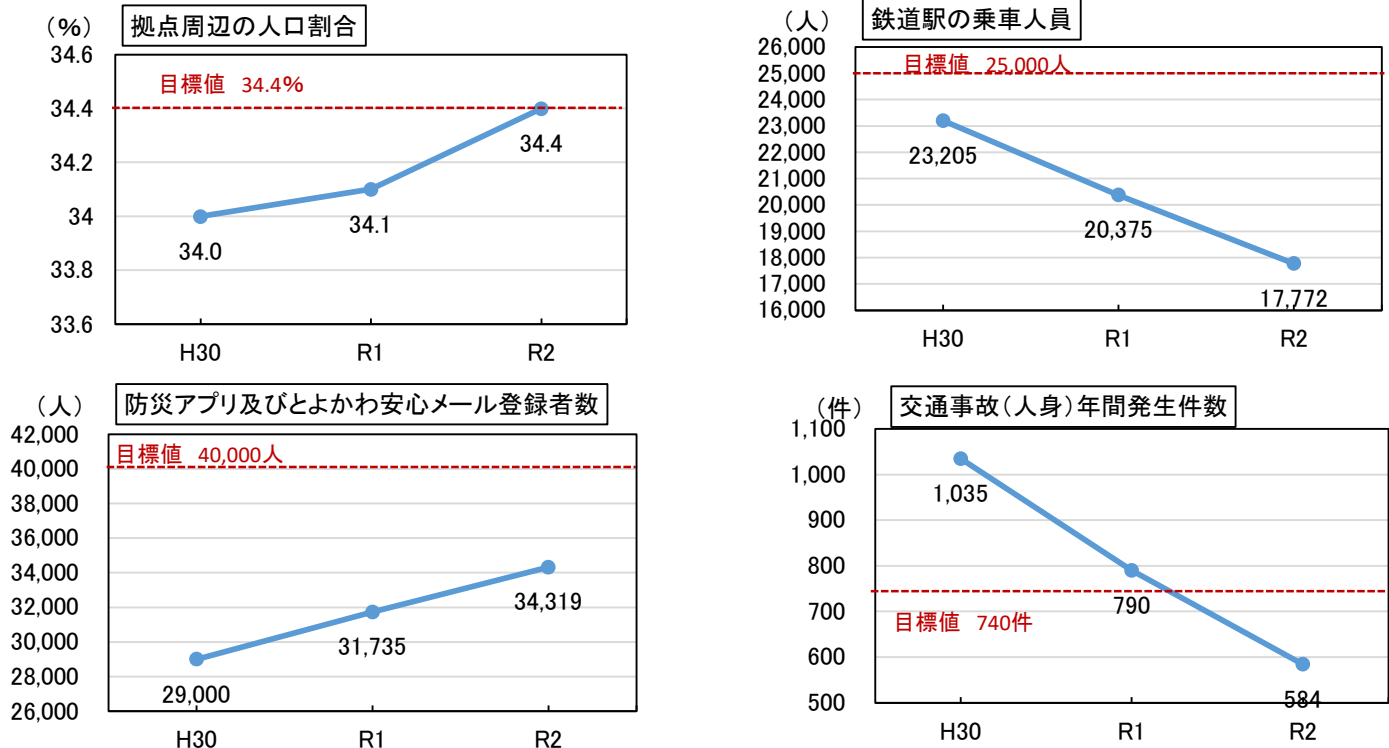
1 重要業績評価指標（KPI）の評価

（※ KPIのうち「『豊川市の住みよさ』市民満足度」、「『安全・安心』市民満足度の平均値」は、最新値が公表されていないため非掲載。）

（1）達成状況レーダーチャート

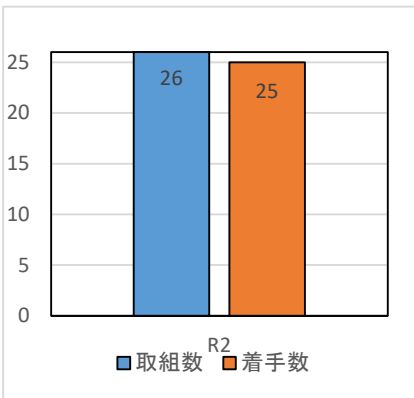


（2）施策別 K P I の推移

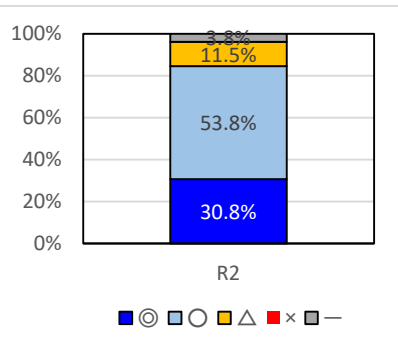


2 事業効果（主管課による評価）の推移

（1）着手率



（2）自己評価割合



着手率
96.2%

評価内容
◎：非常に効果的であった（目標値を上回った）
○：相当程度効果があった（目標値を上回っていないが、7～8割達成）
△：効果があった（目標値を上回っていないが、事業開始前よりも改善）
×：効果がなかった、効果が得られなかった
－：未着手・未実施

3 評価における自己分析

- KPIでの目標値達成率は、40.0%（5項目中2項目※最新値が公表されていないKPIを除く）となっており、未達成のKPIにおいても、目標設定がR7年度に向けて積み上げる目標値については、順調に推移しているものと評価する。
- 活動評価指標を基にした担当課の自己評価（R2）については、KPI達成分野の事業において◎の評価または○の評価が多く、個別事業の活動指標とKPI（成果指標）が、概ね適正に設定できていると考える。

4 新型コロナウイルス感染症の影響下における各指標の状況

※取組状況報告に掲載されているKPI及び活動指標のうち、令和元年度と2年度の実績値の増減の差が概ね20%以上ある主なものを抽出。増減に*がある指標は減少の方が効果的であるもの。

KPI(重要業績評価指標)又は活動指標	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	増減（％）
交通事故（人身）年間発生件数	790件	584件	▲26.1% *
拠点地区定住促進事業補助金交付件数	78件	158件	+102.6%
老朽空家等解体費補助金交付件数	69件	47件	▲31.9%
空家バンク登録件数	7件	3件	▲57.1%
コミュニティバス利用者数	101,604人	71,129人	▲30.0%

5 新型コロナウイルス感染症の影響下における各指標の状況の自己分析（全体）

- 【人口動向】
■本市への転入超過数〔（R1）371人→（R2）92人〕、女性の転入超過数〔（R1）158人→（R2）84人〕が大きく減少している。
- 【観光・レジャー動向】
■年間観光入込客数〔（R1）838万人→（R2）479万人〕、外国人宿泊者数〔（R1）52,079人→（R2）2,706人〕が大きく減少している。
■ぎょうぎランド来園者数〔（R1）36.7万人→（R2）25.8万人〕をはじめ、集客施設への来場者が大きく減少している。
- 【市が主催するイベント等】
■企業や個人向けのイベント・講座等は、予定通り開催できなかったものが多く、関連する実績値は全般的に低調となっている。
- 【今後の考え方】
■新型コロナウイルス感染症の影響下において、KPI及び活動指標の令和2年度実績値は令和元年度に比べて低調となっているものが多い一方で、外出自粛による交通事故（人身）年間発生件数の減少や託児施設等の利用控えによるファミリーサポートセンター事業活動件数の増加、緊急経済対策の一環に位置付けたことによるふるさと納税返礼品の増加など、新たな潮流も見られている。
- 引き続き、数値目標等の進捗状況を的確にとらえ、新型コロナウイルス感染症が総合戦略に及ぼす影響を把握し、ウィズコロナ・アフターコロナに関する国・県の動向を踏まえながら、総合戦略に掲げた取組を推進していく。

＜基本目標①＞ しごとづくり

- 首都圏人材確保支援事業について、「首都圏」を「都市圏」に変更できれば、関西圏など事業の取組が広がるのではないかと。また、豊川市の企業と学生のマッチング場所として、豊川市ゆかりの豊川稲荷東京別院の施設を利用した説明会の実施を検討してほしい。
- ひまわり農協との連携による就農者及び生産性向上への支援について、就農塾修了者が販売農家として自立できるようなフォローをより強く実施していただきたい。また、就農塾は前年度から量より質を高めて着実な就農につなげる取組へ方向を転換しており、活動指標は就農率など質の評価の追加や変更を検討すべきではないか。
- 製造業のイノベーション思考やコロナ禍に伴うリモート勤務など仕事の考え方や働き方など世の中が大きく変化している。今望まれている支援が何かをしっかりと聞き、今必要とされる仕事づくりを今一度考える時期が来ているのではないだろうか。

＜基本目標②＞ ひとの流れづくり

- スポーツ合宿への支援について、今年度の利用率はコロナ禍にもかかわらず順調に推移しており、さらに利用を広げるため、人数制限の緩和や対象の拡大を検討してほしい。また、今後のアフターコロナを見据え、若者が豊川に来るきっかけづくりとして、メディアへの働きかけなどを継続してほしい。
- 都市圏プロモーション事業について、首都圏や関西圏でのプロモーションの実施は困難であったと考えられるが、プロモーションの進め方として、まずは近隣、さらには中部圏での知名度アップが必要ではないか。また、市民が地元にとどまるようなアプローチも必要と考える。
- どの事業もコロナ禍対策が不十分だったのではないかと。オンラインを活用するなど少しでもひとの流れがつかれるように取り組みを模索しながら実践している地域もあり、ICT機器等を利用した代替策の工夫が必要である。また、スポーツや文化的イベントの中止はやむを得ないが、新たなSNS発信やPR方法の検討が必要である。

＜基本目標③＞ 結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域社会づくり

- 結婚支援事業については、単にカップル成立数が重要なのではなく、豊川市に在住するカップルをつくるのが重要であるため、そのような視点で活動指標や施策を検討してほしい。また、コロナ禍をきっかけにオンラインなど市としても新たな出会いの場づくりにぜひチャレンジしてほしい。
- ICTを活用した教育環境（GIGAスクール構想）の推進について、児童・生徒だけでなく、先生側の機器の整備体制や指導強化の取組に配慮が必要である。また、機器の導入・活用だけでなく、更新まで見据えた計画がないと現場が混乱すると思われる。
- 子育て分野は全般的に大変充実した支援制度となっており、全体としてコロナ禍でよくやっている印象を受けた。今後も「子育てしやすい豊川市」にしていきたい。

＜基本目標④＞ 安全で快適に暮らせるまちづくり

- 通学路の一斉点検と安全対策事業について、子どもたちが安全・安心に暮らせるまちづくりは、子育て世代に向けたシティセールスの土台となる。通学路における横断歩道などに関する要望や意見を聞く機会があるので、児童や家族の声をよく聞いた上での対応をお願いしたい。
- 空き家等対策の推進について、目標には達していないものの、成約が7件あったことは評価できる。特に個別相談会は非常によい取組であり、個別相談会から新設の補助金や既存の事業への誘導ができれば件数も伸びると考える。あわせて、リバースモーゲージ（自宅に住み続けながら、その自宅を担保に老後資金を借りることができる制度）の活用を検討してはどうか。
- 施設整備などの複数の事業において、工程計画自体が活動指標になっており、予定通りできたかどうかで自己評価している。評価者にとっては、事業の目的を達成するためにどういう位置づけで、どこまでできたかを評価できる指標を設定してほしい。今後の評価のタイミングで可能であれば、活動指標の見直しを検討していただきたい。